

祈りの言葉

昨年度、私たちが通う湯出小学校は、創立 150 周年を迎えました。創立 150 周年を迎えるにあたって、湯出小学校で復活したものがあります。それは、今まであまり歌われてこなかった、校歌の 3 番目の歌詞です。復活した 3 番の歌詞は「みどりにたぎる 大滝の水」という言葉から始まります。新たに学校に設置された大きな歌詞ボードを見て私は、150 年も前から、自然豊かな湯出の地で、豊かな山から流れ出した栄養豊富できれいな水があったことを感じました。山から流れ出した水は、栄養をたっぷりふくみながら水俣の海に注ぎ込まれ、豊かな海をつくっていきました。

そのようなきれいな水、きれいな海をもつ水俣で、水俣病が発生し、人間をふくむ、多くの生き物の命が失われたことは、とても悲しい出来事だと思います。

私たちはこの水俣で、たくさんの方、先生方、地域の方々、患者さん方と交流するなかで、水俣病の原因や症状に関する事、患者さんの苦しみや想いをたくさん学ぶことができました。そして、昨年度は「水俣に学ぶ肥後っ子教室」で、限りある水を大切にすること、水俣病だけではなく、身の回りの差別や偏見を絶対に許してはいけないことを学びました。

私が一番心に残っていることは、語り部である滝下昌文さんのお話です。自分のことを差別してきた人たちに対して、悔しい思いをしながらも立ち向かい、精一杯生きてこられた滝下さんのお話を聞き、その生き方がとてもかっこいいと思い、自分も滝下さんのような大人になりたいと思いました。

また、水俣病が奪ったものは、水俣の自然や様々な生き物の命だけではないことを改めて知りました。人々の絆まで奪ってしまった水俣病のような出来事を、もう2度と起こしていけないと強く感じました。

しかし、水俣病の公式確認から68年たった今でも、新聞記事やニュース等で「水俣病」という言葉を見ます。また、「サステナブル」や「SDGs」という言葉がたくさん世の中で使われるようになり、持続可能な社会に向けて解決しなければならない環境問題は、未だに日本に、そして世界にたくさん存在しています。

そのような中で、私たちにできることは何でしょうか。湯出小学校では、身近な環境を守るために、学校版環境ISOに取り組んでいます。「使わない時は電気を消すこと」「ごみの分別、減量をすること」など、当たり前のことを学校や家庭でこれからも続けていくことが大切だと考えます。

また、差別や偏見を許さず、みんなが笑顔で学校に来ることができるよう、毎年湯出っ子人権宣言をみんなで立てています。

昨年度は

「みんなが 楽しく 明るい笑顔になることを します。」

「自分の思いも 相手の思いも 大事にしながら

やさしく伝え合います。」

「一人で なやまないで みんなで 助け合います。」

の3つを考え、みんなで笑顔の湯出小学校をつくってきました。

今年度はもっとみんなが笑顔で、もっと明るく楽しい湯出小学校になるように、自分も友達も大切に、みんなで協力していきたいと思います。

最後になりますが、私は野球の試合で、ここエコパーク水俣をよく訪れます。海の匂いや木々の香りがする自然豊かなこの場所が、そしてこの水俣の地が大好きです。

この故郷水俣をこれからも守り、よりよい明日をつくっていくこと。ここ水俣から環境保全と笑顔の輪を広げていくことを誓い、祈りの言葉といたします。

令和6年5月1日 水俣市立湯出小学校

児童代表 野中隼一朗